

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	長崎大学	整理番号	1814
プログラム名称	世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム		
プログラム責任者	北 潔	プログラムコーディネーター	有吉 紅也

卓越大学院プログラム委員会における評価

〔総括評価〕

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

〔コメント〕

卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、ロンドン大学とのパートナーシップにより構築された5年一貫ならびに医歯薬系の4年制コースの学位プログラムは、グローバルヘルス分野で卓越した人材を輩出している。学生選抜は倍率が高く、KPIとして国際学会発表件数や学術誌論文数も目標を十分に達成している。日英の合同学務委員会や外部評価を通じた質保証体制も整備され、学位審査基準は世界トップレベルに準拠している。指導体制についても、ロンドン大学に依存することなく指導することができる学内での連携・体制が整ってきている。一方で、候補生と正規生の名称や説明に分かり辛さがあり、定員管理および学生ケアが課題とされている。プログラムは地方大学の国際展開モデルとして高く評価されているが、さらなる改善が期待される。

修了者の成長については、本プログラムは国内外から優秀な教員の参画を得て運営され、グローバルヘルス分野で国際的に通用する人材を育成している。国際誌への論文発表はKPIを大幅に上回り、卓越した研究教育成果が見られる。QE審査や学位審査にはロンドン大学との合同審査体制を導入し、世界トップレベルの学位基準が確立されている。一方、修了生ネットワークの構築や追跡調査が十分とは言えず、今後は修了生と在籍学生間の連携を強化する方策が求められる。

キャリアパスの構築については、本プログラムのキャリアパスの実績は良好で、学生は在学中から国内外の大学教員や研究機関、WHOなどの国際機関、企業から就職オファーを受ける例も多い。Joint Degreeや海外インターンシップ制度を活用し、国立国際医療研究センターや官公庁、NGO/NPOとの連携によるネットワークが学生のキャリア形成に寄与している。修了者の多くはアカデミックポストや国際機関での職を得ているが、定員に対し修了者数が少ないこと、また一定数の辞退者がいることや修了者アンケートの回収率が低いことから、大学と修了者とのネットワーク構築が弱い点が課題である。

大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、本プログラムを契機に「プラネタリーヘルス」の概念が全学的に推進され、新たな学環や体制づくりが進められている。ロンドン大学との連携により「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業（SCARDA事業）」のシナジー拠頭に採択されるなど、国際連携が大きく強化された。さらに、グローバルヘルス基金やディプロマコースの開設、SCARDA事業との連携による財源確保が事業の継続と発展に寄与している。高度な知のプロフェッショナルを育成し、大学全体のレベルアップにもつながっている。